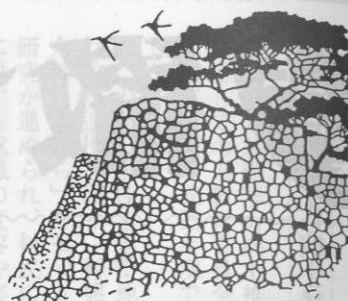


広報 なまじん

8

1993

No.213



——楽しい思い出、元気いっぱい—— 今帰仁小学校で運動会

平成5年6月30日現在



男 4,769(+16)



女 4,795(+4)



世帯数
3,089(+5)

村の人口
9,564(+20)

「楽しい思い出、元気いっぱい運動会」をテーマに七月四日の日曜日今帰仁小学校（宮里政順校長 児童生徒数四二八名幼稚園含む）で一足早い運動会が行なわれた。

当日は、三十度を越す炎天下となったが子ども達は、大粒の汗を流しながら元気いっぱい運動場を走り回っていた。

プログラムは、全校生徒による準備体操でスタート。各学年による「かけっこ」幼稚園による「ゆうぎ」「親子リレー」などの競技が繰り上げられ、特に最後の種目となった「校歌ゆうぎ」には、父母と在校生が一体となり演技を披露、会場からひとときわ高い大きな拍手が送られた。

また、子ども達の姿を記録に残そうとお父さんやお母さんは、カメラやビデオを片手に大張り切り。お昼時間は、家族で弁当を囲み親子のふれあいを楽しんでいた。

合
言
業

徹すれば光る

今帰仁村教育委員会



開催事業

- 一、学力向上対策各部会の開催
- 二、学力向上シンポジウムの開催
- 三、各学教育懇談会の開催
- 四、基礎学力向上実践発表会の開催
- 五、基礎学力向上に関する講演会・講話等の開催
- 六、学校と教育委員会の学力向上対策懇談会の開催

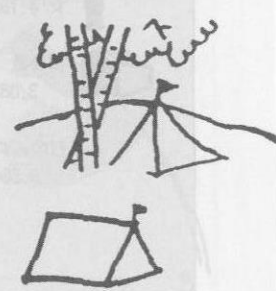
行政（教育委員会）

重点実践事項

- 一、学校、地域、家庭に学力向上の意識の高揚と実践活動の促進を図る。
- 二、「わかる授業づくり」「授業における教師の役割」等についての実践研究を促す。
- 三、「進級テスト」「基本的・基本的事項事例集」の活用方法について理解を図る。
- 四、「朝読み・夕読み」の継続実践への援助活動を行う。
- 五、「達成度テスト」の目標数値設定のための援助活動を行う。

努力事項

- 一、教育課程の適正な管理を行う。
- 二、知能・学力検査、達成度テストの実施と分析及び効果的な活用を図る。
- 三、各学学力向上対策委員会の活性化を図る。
- 四、学対各委員会の連携と活性化を図る。
- 五、幼小中高校の連携と活性化を図る。
- 六、広報活動の活性化を図る。



児童生徒

重点実践事項

- 一、授業を真剣に受ける。
 - 二、「朝読み・夕読み」を実行する。
 - 三、ねばり強く、集中して家庭学習をする。
- 家庭学習時間のめやす
- | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|-------|------|
| 低 | 40分 | 中 | 60分 | 高 | 90分 | 中・高校生 | 120分 |
|---|-----|---|-----|---|-----|-------|------|
- 四、達成度テスト目標数値の達成の努力をする。

努力事項

- 一、自分から進んで学習する。
- 二、計画を立てて学習する。
- 三、目的意識をもって学習する。
- 四、読書に親しみ、知識を豊かにする。
- 五、正しいことばづかいをする。
- 六、明るいあいさつをする。

学校

重点実践事項

- 一、学習指導方法の工夫改善（分ける楽しい授業の構築）
- 二、「学習のねらい」「学習課題」の明確化・共有化を図る。
- 三、一時間一時間の授業に児童生徒の「課題解決・自力解決」の場を多く設定する。
- 四、「進級テスト」「基本的・基本的事項事例集」の徹底活用を図る。
- 五、「達成度テスト」の目標数値の設定とその手だてを行う。
- 六、児童生徒個々・各教科・学校（児童生徒個々・各教科・学校）

努力事項

- 一、「朝読み・夕読み」実践の手だてと工夫
- 二、前提テスト・形成的評価テスト実施後の補習指導の実施
- 三、創意ある読書活動の実施
- 四、日々の授業と家庭学習の関連を図る工夫
- 五、基本的生活習慣の形成

本村の学力向上対策

平成五年度

本村の基礎学力向上推進地域としての県教育委員会の研究指定は、平成三年度で終了した。

この間、学校・家庭・地域・行政が連携を図り「村興しは人づくりから」をモットーに研究が進められ、村民の教育に対する意識の変容や実践活動に確かな手ごたえがあったものと評価している。

主な成果として

- 一、各学校では、基礎学力の向上に向けて校内研修体制が確立され、授業研究を中核とした「わかる授業づくり」に努め、成果をあげている。
- 二、家庭・地域では生活リズムの確立をめざし、六・三〇運動が展開され公民館の放送施設を活用した朝・夕の放送運動が活発化し、成果をあげている。

平成五年度は、昭和六十三年度からはじまった本村の第一次「学力向上対策六ヵ年計画」の最終年次であり、これまでの取り組みを点検し、見直すべきは見直し、本村の第二次学力向上対策の基礎固めの年としたい。

- 一、学力向上対策の重点実践事項と努力事項
- 二、家庭・地域における重点実践事項の設定理由
- 三、「朝読み・夕読み」の実践方法

地域

重点実践事項

- 一、「朝読み・夕読み」の継続実践への指導援助活動を行う。

努力事項

- 一、青少年の健全育成運動の展開をする。
- 二、「朝読み・夕読み」運動の啓蒙・環境設定を行う。
- 三、立看板等の設置による活動の促進を行う。
- 四、6時30運動の展開をする。
- 五、地域行事への参加についての啓蒙活動を行う。
- 六、「明るいあいさつ」に対する指導を行う。
- 七、深夜徘徊等、非行防止活動の展開をする。

家庭

重点実践事項

- 一、「朝読み・夕読み」の継続実践への指導援助活動を行う。

努力事項

- 一、基本的生活習慣の形成を図るための指導援助を行う。
- 二、家庭学習時間の確保を図るための指導援助を行う。
- 三、家庭学習の激励・賞賛・点検を行う。
- 四、幼小の時期から目的意識をもたせる援助を行う。
- 五、親子読書の継続実践により、読書への誘いを図る。
- 六、「在宅確認」を徹底し、親子の会話を大切にすること。
- 七、「明るいあいさつ」の習慣を養う。
- 八、「正しいことばづかい」の習慣を養う。

重点実践事項の 設定理由

【家庭・地域における重点実践事項】

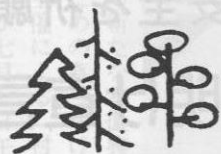
●「朝読み・夕読み」の継続実践への指導援助活動を行う。

本読みは、全ての学習の基礎・基本をなすものである。「読める」ということが学習を進める上での大前提であり、学習課題・学習問題そのものの意味をとらえ解決の糸口をつかむことになり、理解を深め、広げる力になるのである。本県かつ、本村の児童生徒の実態をみたとき、特に国語のテスト等で「読む力の不十分さ」と「読むスピード」がないため、定められた時間内

に解く問題を最後までやり遂げられないと指摘されている。また、読書量ともかわつて、本土の児童生徒に比べ本県の児童生徒は、文字に親しむこと、活字に親しむことが習慣化されていないため語彙量が少なく、言語能力も低いと言われている。

「本がすらすら読める、読めない」「言語能力が高い、低い」ということそのものが学力差となって現れていると思われ。なぜなら、学力の高い子は本読みのできる子であるからである。

更に、これまでの村学力向上対策の反省・評価で、家庭・地域で具体的に「何をどのように取り組んだらいいのかわからない」という指摘もあった。家庭・地域でまた、「村ぐるみの実践活動として盛り上げ、効果あらしめるもの」「取り組みが可能で具体的に見えるもの」を掲げ、学力向上対策に



「朝読み・夕読み」

特記事項

○朝読みについては6時30分起床との関連から、小学校・中学校とも実践できる働きかけを行い、継続実践できるようにする。

○部活動の早朝練習があっても「5分間読み」を奨励して実践できるようにする。

○夕読みについては必ず夕方という意味ではなく、児童生徒の生活時間に合わせ就寝までに「読み」を行うことである。

○幼稚園については保護者等が「読み聞かせ」を行うことにより、今後の成長段階における「読み」への誘いをするように努める。

○高等学校については学校の主体性に任せ、家庭学習とのかかわりから「読みの大切さ」について意識を高めていくようにする。

評価・賞賛

一、カードを提出させ、学級担任の検印等により、実践の確認をする。

二、実践の賞賛、激励、評価の工夫をする。

三、表彰等は、学校の創意工夫による。

一、学級学習計画帳またはカードの活用により、学級担任で実践の確認を行う。

二、実践の激励、賞賛、評価ができるように工夫する。

一、継続実践に対する賞賛、激励の声かけをする。

二、親子の会話のよい機会にする。

○「朝読み・夕読み」の継続実践に対する賞賛、激励の声かけをする。

「夕読み」の実践方法



今帰仁村教育委員会

実践方法

一、音読を原則とする。

二、先生が与えたところを読むことを原則とする。

三、読んだら保護者等のサインをもらう。

一、音読または黙読をする。

二、家庭学習とのかかわりを持たせ教科学習で「読み」を取り入れる。

三、学習計画帳等に保護者のサインをもらう。

一、本読みができたならサインをし、学級担任との連携を図る。

二、実践に対する激励、賞賛の声かけをする。

○「朝読み・夕読み」の継続実践について、地域ぐるみの運動を展開する。

手立て

一、国語の教科書を中心に読んでくるところを「朝読み・夕読みカード」に記入させる。

二、学級担任の意図により、他の教科の教科書から与えてもよい。

三、カードの検印を押す。

一、国・英・社の教科書を中心に学級担任と教科担任との調整を図り学級担任が働きかけを行う。

二、家庭学習計画帳またはカードの活用により保護者等との連携を図り、継続的な実践をさせる。

一、小学生は音読ができるよう激励する。

二、中学生も実践できるよう絶えず温かく激励する。(叱らない)

一、朝読み・夕読みを奨励する立て看板等の設置を行う。

二、地域・公民館等の放送施設の活用を図る。

三、児童生徒に激励の「声かけ運動」を展開する。

意義・効果・期待

○読みの力をつける。

- ・6時30分起床の習慣を身につける。
- ・目覚めと授業への集中力をつける。
- ・朝食欠食をなくする。
- ・早登校の習慣化を図る。
- ・親子の会話のよい機会にする。
- ・生活リズムを整える。

○読みの力をつける。

- ・6時30分起床の習慣を身につける。
- ・目覚めと授業への集中力をつける。
- ・朝食欠食をなくする。
- ・早登校の習慣化を図る。
- ・親子の会話のよい機会にする。
- ・生活リズムを整える。

○学対への意識の高揚と実践活動の活性化を図る。

- ・親子の会話の機会にする。
- ・学校との一体化、連携を図る。
- ・地域活動との連携意識を図る。
- ・家庭の教育力の向上を図る。

○学対への意識の高揚と実践活動の活性化を図る。

- ・地域の協力関係を築く。
- ・児童生徒の健全育成への関心を高める。
- ・家庭・学校との一体化、連携を図る。

小学校

中学校

家庭(保護者)

地域

海
神
祭大漁と航海の安全を祈願
同時に梅雨明け宣言
古宇利OBが初優勝

上間村長の力強いハリーー鐘

大漁と航海安全を祈願する海の祭典海神祭(村漁協・古宇利重組組合長主催)がユッカヌヒー(旧五月四日)の六月二十三日午後二時より運天港で開催された。

この日は十九年ぶりに「慰霊の日」と重なり、学校や官庁が休みのため朝早くから多勢の人々が家族連れで詰め掛けにぎわいを見せた。

ハリーーは、上間博安村長

により力強いハリーー鐘が打ち鳴らされる中、組合員による御願ハリーーでスタート。

続いて運天消防団、商工会、古宇利壮年、古宇利OB、養殖部会、上運天消防団、渡喜仁消防団、農協、役場の九チームによる職域ハリーーが行なわれた。その結果予選を勝ち抜いた上運天消防団、渡喜仁消防団、古宇利OBの三チームが決勝に進出して熱戦をくり広げ、チームワークと力強いかいさばきで古宇利OBチームが初優勝。渡喜仁チームの四連覇をはばんだ。

その後、アトラクションとして「カンカン船」レースや相撲大会も行なわれ、会場から盛んな声援が送られた。



職域ハリーーのスタート

7月1日付採用
書記
名城健二4月1日付採用
ディサービス指導員
立津幸子

○事務局長・謝花恒章(昇任
福祉活動専門員) ○福祉活
動専門員・山内篤(昇任・書
記兼コミセン担当)

(一)内は、前職です。

村社会福祉協議会では、玉城真光前事務局長の役場転出に伴い人事異動を実施しました。異動内容は、次のとおり、

社協で人事異動

第十九回を向かえた今帰仁村老人クラブ大会が六月二十五日村コミュニティセンターで開催された。

大会は、会員多数が出席のもと平成四年度事業報告及び決算報告・平成五年度事業計

第19回

健康・知識・教養の向上に努めよう

今帰仁村老人クラブ大会

画・予算説明など満場一致で承認された。

諸喜田会長にひき続き、来賓としてあいさつに立った上

間博安村長は「積極的な社会活動の参加を目指していつまでも御健康で豊かな生活を送

って下さい」と激励。

そのほか、山城議長、松田社協会長、山城北老連会長、大城県議が祝辞を述べた。

この後、今大会を契機に実践と実現を期し総力を結集しよう、(一)老人友愛訪問活動

を強化し孤独老人をなくしよう (二)地域を緑と花に囲まれた住みよいムラにしよう (三)ボランティア活動を進め地域社会に貢献できる老人クラブにしよう (四)オアシス運動を進めよう、など四項目の大会宣言を採択した。

そして、これまでクラブ活動に功績があった。仲村松栄(今泊)・大城マツ(今泊)

・西島ハル(与那嶺)・大城春(謝名)・嘉陽宗栄(玉城)

相撲の部の三位までの入賞は次のとおり。

○優勝―仲松克夫○二位―玉城武利○三位―渡口彦春の三氏です。



・仲栄間政子(呉我山)・仲村喜助(運天)・運天佳子(運天)の各氏が表彰を受けた。

社会に貢献できるクラブをめざして

「むらづくり講演会」

人材育成を強調

牧野浩隆(琉銀調査部長)



人材育成の大切さを話す牧野先生

人材育成が必要である。それが地域を開発する上でも大きなインパクトとなる。

〔教育立県・長野に学ぶ〕

日本において長野県が教育立県として脚光を浴びるに至ったのは、子どもに教育を施して他地方に行っても十分生きていけるようにあるいは、仕事が出来るように教育を十分に施してきたからである。その意気込みがあるから世界を代表するハイテク産業が林立するようになった。沖縄県も長野県に学び、頭脳立県として成長していく事が地域開発という視点及び経済発展という視点からも非常に重要なことである。

本県が頭脳立地県になるための具体的方法として、長野

「グローバル(世界的)」に考え、ローカル(地方的)に行動するむらづくり」と題して講演した。

講演で先生は、今後の沖縄経済の発展を考えた場合人的格差の是正が最大課題であり、その是正のためには、理工系

差も大幅に是正され、ひいてはアメリカのシリコンバレーのようなものが沖縄にやつてこないとも限らないと強調された。

〔理工系人材育成の急務〕

高度な技術が伝播していくパターンというのは、ハイレベルの技術を持つ親企業の技術者から子会社の技術者へ、あるいは関連会社へと徐々に伝播している。

わたしが、これからの産業構造を考えた場合理工系人材育成が不可欠であり急務である。二十一世紀を展望した場合、長野県のように卒業する学生の七割から八割が理工系の学生で占めるようになってよいのではと考える。

このことは、沖縄経済の発展のためにも今帰仁の発展のためにも重要なことである。



真剣な表情で講演に聞き入るみなさん

みんなで盛り上げよう 第14回 今帰仁村まつり

8月21日(土)・8月22日(日) 村運動公園を主会場に

今帰仁村まつりは、今帰仁村の現状を広く村内外に紹介することによってすべての村民が融和と情操及び意識高揚を図ると共にひいては村民相互の協調と連帯意識を深め健康で明るい豊かな村づくりに寄与することを目的に村の振興及び発展に結びつけたいという願いをこめて開催されるものです。

従って今からそのような人的格差を埋める方向で本気で取り組み必要がある。そうすれば十年後には本土とドッキングしてうまくやっていけるだろうと話を結ばれた。

今泊のハサギンクワ

今泊は今帰仁城下の字(アザ)である。その今泊にフブハサギとハサギンクワと呼ばれる二つの神ハサギがある。この神アサギのことを崎山から今泊にいたるイリンシマ(西のシマ)ではハサギと呼び、平敷から東のアガリンシマ(東のシマ)ではアサギと呼んでいる。これらのハサギはムラ・シマの祭祀と切り離すことのできない重要な場である。

今回紹介する今泊のハサギ

ンクワは今泊の今帰仁側のハサギで、もう一つのフブハサギは親泊のハサギである。今泊は明治三十六年に今帰仁村と親泊村が合併して今泊となった村である。その後分離し、昭和四七年に再び合併するといった歴史をもつ。合併・分離・合併という歴史を持つムラ・シマであるが、ハサギは一つに統合されることなく現在にいたっている。

上の写真は『琉球宗教史の研究』(鳥越憲三郎、昭和四

十年発行)の口絵に掲載されたもの。その頃のハサギンクワは、茅葺き屋根の建物であった。建物のまわりに広場があり、一本の大きなコバテイシ(クワデーサー)がある。『琉球国由来記』(一七一三年)の今帰仁村(ムラ)に「今帰仁城内神アシアゲ」と「安次嶺神アシアゲ」があり、安次嶺アシアゲがハサギンクワと見られる。

る。安次嶺アシアゲは、今帰仁間切に居住した安次嶺按司に由来すると見られる。親泊村に「親泊神アシアゲ」があり今帰仁ノロの管轄である。

下の写真は、平成元年撮影のハサギンクワである。昭和四十年代に茅葺き屋根から瓦葺きに葺きかえられた。神ハサギの中に香炉があり、北側に置かれている。

ハサギンクワで行われている祭祀に、シマウイミ(旧盆明けの子の日)・シマウイミ(旧八月十一日)・プトウ

チ御願(新十二月二四日)がある。現在行われていることらの祭祀は、親泊側にあるフブハサギでも行われ、神人はハサギンクワと同じメンバーである。ムラ・シマにおける神行事は、神人と字の区長など僅かな人たちで行われ、ムラ人の参加は少ない。

親泊側のハサギがフブハサギで今帰仁側がハサギンクワと呼ばれている。フブハサギは大きなハサギや元のハサギ、ハサギンクワは小さなハサギ、あるいは分かれたハサギを意味するのであろう。すると、ハサギンクワはフブハサギからの分かれという意味合いがある。ハサギの名称をつけたとき、今帰仁村(ムラ)は古い時代に親泊村(ムラ)からの分かれであるとの認識があったとも考えられる。もう一つは、今帰仁村が十七世紀前半に今帰仁城付近から親泊村の側に移動してきたことに起因している可能性もある。

茅葺き屋根のハサギンクワの写真やハサギの呼び方からムラ・シマの歴史を読みとっていけそうである。

仲原 弘哲

(歴史文化センター準備室)



▲茅葺きのハサギンクワ(『古代琉球史の研究』より)



▲瓦葺きのハサギンクワ (1989年)

天底・渡喜仁で区民運動会

健康増進と連帯を高めよう

子ども達のすこやかな成長を願う区民の健康維持を図ろうと、渡喜仁・天底区で区民運動会が開催された。六月六日天底小運動場で、行なわれた天底区民運動会は、五年振りの開催とあって朝早くから多数の区民が詰めかけた。開会式で与那栄康区長は「区民の皆さんがこの大会を機会に健康増進を図っていただき、連帯意識を高めていきましょう」とあいさつ。

その後、幼児によるかけっこ、親子リレー、中学生総力リレーなど、終始和気あい合いの中、プログラムは進行した。中でも七番目に行なわれた「家族リレー」では、二十数組の参加チームで盛り上がりを見せ、陸上王国・天底を字内外にPRした。

参加した父兄は「特に中学生の皆さんが積極的に参加して、大会を盛り上げた事は他字の模範になるのでは……」と頼もしそうに話していた。一方、第六回を向かえた渡喜仁区民運動会は、初夏の青い空の下、区民及び遠く那覇郷友会からも多数が参加して村運動公園で開催された。

諸志ふれあい広場 植栽完了!!

(宝くじ緑化推進コミュニティ事業)

諸志区では「いつでも楽しく過ごせる広場を」と木陰の少ない同広場に、自治総合センターの行う、平成五年度宝くじ緑化推進コミュニティ事業の助成を受けて、この程、植栽が完了しました。

この日は区長総出で植栽を行ない、子供達はなれない手つきでイスの木など一本一本丁寧に植えていきました。翌週には、同広場において学事奨励会も行なわれ、綱引きや、親子ソフトボール大会などのスポーツを楽しみ、区民相互の親睦が図られました。



老いも若きもみな踊ろう天底区



遠く那覇郷友会の皆さまもかけつけにぎわう渡喜仁区

各保育所で七夕祭り 短冊に願いを込めて



ゆかた姿でおしとやかに

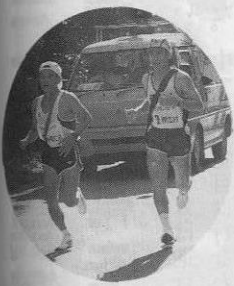
七月七日は五節句の一つ七夕。村内各保育所でも七夕祭りが行われ、園児達は、ゆかたやジンベエ姿などで登園、年に一度の祭りを楽しんでいた。仲宗根保育所(池田久子主任・六十名のくま組(大城植実・保母)では、先生よ

り七夕にちなんだ伝説をパネルシアターで説明を受けた。その後、子ども達からの願い事を聞き取り、保母が代筆した短冊には、「カメンライダーになりたい」「看護婦になりたい」など、幼児らしい思いの発想で竹に飾り付け、願い事がかなえられますようにと、小さな手を合わせていた。



国頭郡駅伝 伊是名大会

全員の力強い走りで2位入賞



区間2位の力走・上間選手

「やんばるはひとつ」を合言葉に、自然と調和した琉球史ゆかりの島、伊是名村で第三回国頭郡えきでん競争大会が開催された。

北部三離島を一巡する今年、北部各町村より、十二チームが参加し、栄光のゴールを目指した。

当日は途中、棄権者をだす



惜しくも準優勝・選手・役員のみなさん

程の酷暑の中、今婦仁村チームは、前半、先頭争いに加わり好位置をキープ、しかし、中盤選手同志のかけひきと、暑さの影響で、中位グループへ後退したが、後半の上間哲



當山主任技師の説明にうなづく長官

北修二沖縄開発庁長官 古宇利大橋建設予定地を視察

六月二十三日、北修二沖縄開発庁長官が、古宇利大橋建設予定地(屋我地から)を視察しました。

北長官は、糸満市で行なわれた慰霊祭の後、訪れたもので、上間村長をはじめ、役場各課長の出向えを受けた。

上間村長が古宇利島の概要を説明した後、県の職員より現在の大橋の建設進捗状況の説明に、耳をかたむけながら盛んに質問もされ、古宇利大橋建設に対して、重点的に取り組まれている様子だった。

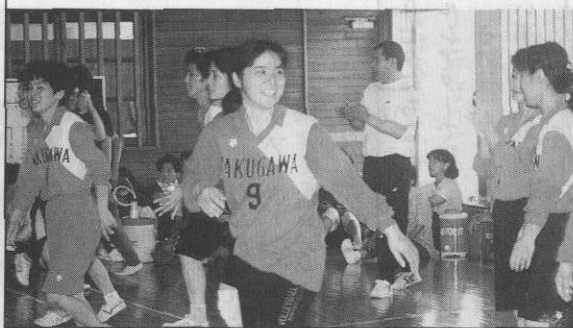
古宇利大橋は、今世紀末の完成をめどに、現在調査が進められています。

第18回 PTAバレー大会

男子一今婦仁中
女子一天底小に栄冠

村内各学校のPTA間の親睦と交流を図る事を目的に第十八回今婦仁村PTA連絡協議会(小浜美千子会長)によるバレーボール大会が六月二十七日、古宇利小中学校体育館で開かれた。大会には、村内各学校区より男女それぞれ八チームが出場。各チームとも白熱した試合を展開盛り上がりを見せた。

男子優勝戦は、今婦仁中と北山



高が対戦。絶対的エースを有する今婦仁中が圧倒的な強さで勝利を納めた。

女子は、天底小と今婦仁小で競われ、大接戦の末、ねばり強くボールを拾い続けた天底小に栄冠は輝いた。

ぞ!」とその意気込みを語っていました。

出場した選手は、次の方々です。

○一区(与那嶺孝子) ○二区(宮里晃) ○三区(吉嶺真)

○四区(上間直樹) ○五区(城間喜光) ○六区(上間哲男)

○七区(仲里綾子) ○八区(瑞慶山良邦) ○九区(石川清敏) ○監督(与那嶺誠)

「梯梧荘」リフレッシュオフ



公立学校共済沖縄保養所「梯梧荘」の全面改修工事が、この程終了、近隣のハイレベルなりゾートホテル並みの施設として、生まれ変わりました。

同施設は、昭和五十二年与那嶺地内に開設以来、住民や組合員の保養の場として、貢献してきましたが、急速の社会変化に伴い、施設の内容の充実など使用者のニーズに応

ト平屋及び二階建○宿泊(八十七名)○その他にバーベキュー広場、小公園、プール、テニスコート、ゲートボール場など設備が整っています。



気をつけよう海の危険な動物

今帰仁の海にも「ウンパチ」が生息

子供達も夏休みに入り海や自然に親しむ機会が多くなります。

リーフには、海の危険生物がいっぱい。十分気を付けましょう。

本村でも「ウンパチ」というあまり聞きなれない名前の生物が二三年前から確認されています。「ウンパチ」はイソギンチャクの仲間

といわれています。見かけたら絶対にさわらないで下さい。



行方不明者をさがす相談所開設 〈身元確認強調月間実施中〉

あなたの身内の方で、家出・その他の理由で行方が分からないままになっている方はいませんか？

音信が途絶えて生死が分からない方はいませんか？
本部警察署は現在、行方不明者の所在確認や無縁仏の身元確認に努めています。

1. 期間 平成5年8月1日から平成5年8月31日の1ヶ月間

2. 問い合わせ

沖縄県警察本部刑事部鑑識課

☎098-862-0110(内線2765)

本部警察署

☎0980-47-4110(内線31~32)

児童扶養・特別児童扶養(手当)

現況届はお早めに

毎年一回すべての受給者が出す届です。受給者の方は、八月十一日から十二日

(午前九時~午後五時)までに村役場厚生課に提出して下さい。

もし、この届を出さないと、受給資格があっても、引き続き八月以降の手当の支払いを受けることができませんので、必ず提出して下さいようお知らせします。

児童扶養手当って何？

一人ひとりの児童が心身ともにすこやかに成長して欲しい、これは国民すべての願いです。

児童扶養手当制度は、離婚や死亡などによって父のいない(父のいない状態の)児童が充実した家庭生活を送れるよう、その家庭の安定と自立の促進を図るための制度です。

児童扶養手当制度のあらまし

〈受給資格〉

十八歳未満、または二十歳未満で重度の心身障害を有する次のいずれかにあてはまる児童の母、もしくは母がいないか監護しない場合は、その児童を養育する者に対して児童扶養手当が支給されます。

○父母が離婚後、父と別れて生活している児童

○父が死亡した児童

○父が重度の障害の状態にある児童

○父の生死があきらかでない児童

○父がひきつづき一年以上遺棄(家庭をほうり出して面どうをみなくなった状態)している児童

○父が法令により一年以上拘禁されている児童

○母が婚姻によらないで出生した児童



8月/葉月

村民カレンダー

1993年



8/1 日	○道路を守る月間31日まで ○観光週間	17 火	
2 月	○幼児こぼの教室(土、日、祝除く毎日)(9:00~17:00コミセン) ○デイサービス(土、日、祝除く毎日)(9:00~17:00コミセン)	18 水	○3歳児健診(13:00~14:00コミセン) ○心配ごと相談(13:00~17:00コミセン)
3 火		19 木	○ガン検診(12:00~14:00コミセン) ○三味線教室(20:00~コミセン)
4 水	○祖堅方正アンサンブルの夕べ(19:00~コミセン) ○心配ごと相談(13:00~17:00コミセン)	20 金	○高齢者学級(14:00~コミセン) ○親子琉舞教室(20:00~コミセン)
5 木	○佐賀県「伊万里市サマーキャンプ」6日まで(今泊公民館) ○三味線教室(20:00~コミセン)	21 土	○第14回今帰仁村まつり(村運動公園ほか) ○おもちゃ図書館(9:00~12:00コミセン)
6 金	○親子琉舞教室(20:00~コミセン)	22 日	○第14回今帰仁村まつり(村運動公園ほか)
7 土	○婦人会リーダー研修、婦人の主張大会(9:00~コミセン) ○おもちゃ図書館(9:00~12:00コミセン)	23 月	
8 日	○村球格技大会(第49回)北山高校ほか	24 火	○ペン字教室(20:00~コミセン) ○手芸講習会
9 月		25 水	○スーパードッチボール講習会(コミセン) ○心配ごと相談(13:00~17:00コミセン)
10 火	○1歳6ヶ月検診(13:00~14:00コミセン) ○ペン字教室(20:00~コミセン) ○道の日	26 木	○三味線教室(20:00~コミセン)
11 水	○心配ごと相談(13:00~17:00コミセン) ○太極拳(20:00~中央公民館)	27 金	○親子琉舞教室(20:00~コミセン)
12 木	○「子どもの教育を考える討論会」(20:00~コミセン) ○三味線教室(20:00~コミセン)	28 土	○おもちゃ図書館(9:00~12:00コミセン)
13 金	○親子琉舞教室(20:00~コミセン)	29 日	○国頭郡サッカー競技大会(9:00~村総合運動公園)
14 土	○おもちゃ図書館(9:00~12:00コミセン)	30 月	○防災週間
15 日	○全琉婦人エイサー大会(沖縄市)	31 火	○消費税(個人事業者)の中間申告と納付の期限
16 月		9/1 水	

二 寄 付

■社会福祉協議会へ

○国吉真栄さん(仲尾次五六九)より妻、ウトさんの香典返しとして十万円。

■村育英会へ

○長田スミさん(石川市石川七三五)より夫、盛徳さんの香典返しとして五万円。

○第一回今帰仁村親善チャリティゴルフ大会の収益金として十八万五千二百円。※こ

編集後記
情報コーナー

架橋だより



○六月十日、上間博安村長は愛楽園自治会へ大橋の早期実現にむけて協力要請を行なう。
○六月十日、平成四年度に引き続き古宇利大橋の環境影響評価調査委託業務を発注。

○六月十七日、沖縄開発庁渡辺明振興局長、六月十八日、同庁江田総務課長補佐、七月十三日、同庁勝野企画課長がそれぞれ古宇利島を視察。